

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	外国語とその運用（露）		
英文授業科目名	Foreign Languages and Practice		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	三浦 清美		
居室	東1-508		

公開E-Mail	授業関連Webページ
miura@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>（以下、内容は「外国語と外国文化」とほぼ同じ）</p> <p>1年次、2年次におけるロシア語学習経験をふまえて、辞書を活用しながらロシア語のテキストを読めるようになることを目標とする。適宜、ロシア語初級文法の復習もおこなう。ロシア人の日常生活で用いるテキストの大まかな内容がわかる、目的をもってロシア語のネットサーフィンをすることを目指す。日常生活の言葉は、どんな外国語でも、限られた語数の基本単語の繰り返しであるといっても過言ではない。基本的な語彙を身につければ、君たちが考えているよりもはるかに簡単に、上記の能力を身につけることができると思う。必要に応じて、ロシアの文化紹介のコーナーを設けたいと考えている。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>露語第1、第2（あるいは、それと同等のロシア語学習経験）</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>露語演習、露語運用演習。</p>

電気通信大学 平成20年度シラバス

【教科書等】

辞書は必携。1年次の授業で使った『パスポート露和辞典』のほかに、研究社が岩波辞典の大きな『露和辞典』がほしいところです。

教科書に関しては、参加学生の関心とロシア語学習経験にあわせてふさわしいテキストを選び、必要な部分をコピーしてわたすことにしたい。

【授業内容とその進め方】

参加学生の関心とロシア語学習経験にあわせてふさわしいテキストを選定することからはじめる。毎回の授業は演習形式で、担当者を決め、読解をおこなう。その訳語が的確であるか、すなわち、必要な文法事項を把握した上で合理的に訳を導き出しているかをチェックすることが授業のもっとも重要なポイントである。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

毎回の授業の担当をきちんとおこなっているかが、もっとも重要な評価ポイントとなる(50%以上)。出席を重視する。必要に応じて、試験、レポートを課す。

【オフィスアワー：授業相談】

事前にメールなどでアポイントメントを取り、来室すること。

基本的に、火曜日14:30-16:30は在室予定。

【学生へのメッセージ】

外国語を習得することは、まさに新しい世界が開けることであるから積極的に参加してほしい。継続から思いがけない結果が生まれる。学習を継続してほしい。

【その他】